



# M.M.Honcho Newsletter

【3月号】令和6年3月1日発行



## 最高のモデルとの出会い

校長 小正 和彦

2月16日(金)は、パレスチナを通して多様性と平和を考える一日になりました。昨年3月にパレスチナを訪れた高校1年生の浅沼貴子さんと彼女の所属するNPO法人 Connection of the Children (CoC) のメンバーに来校してもらい、「15歳の少女が見た紛争地『パレスチナ』の未来～多様性や平和について考えよう～」と題したプログラムを行いました。浅沼さんは、人道支援に関心もち、是非パレスチナに行きたいと考え、中学校を卒業した春休みにスタディツアーに参加しました。その時に現地で見えてきたこと、体験したことをもとに、本校の子どもたちに向けていろいろな話をしてくれました。朝の全校集会では、現地の写真を見ながら、街の景色や行き交う人たちの様子、食べ物、現地の子どものや小学校の様子を紹介してくれました。そびえ立つ分離壁がある一方で、子どもたちは日本の子どもたちと変わらないことなど、自分で見て感じたこと、いろいろな国やそこに住む人たちとの違いや共通のことを丁寧に話してくれました。そして最後に、ひとつの情報だけで信じるのではなく、自分でも情報を集め判断することが大事であると子どもたちに伝えてくれました。昨年まで中学生であったお姉さんの話は、大人からの話とは違い、優しく子どもたちの心に響いているように見えました。

5年生、6年生とは、さらに多様性と平和を考えるワークを行いました。現在のパレスチナ・イスラエルの問題について、宗教や地理的、歴史的背景について説明し、それぞれのこれまでの長い歴史の中での立場を整理してくれました。その上で、現在現地で起こっていることとして、分離壁や入植、医療や教育の問題、さらに子どもたちの未来について、自分の言葉で伝えてくれました。

浅沼さんからの「平和ってなんだろう？ 平和の価値って何だろう？」「平和のために自分は何ができる？」との問いに、子どもたちも思いを巡らせ、積極的に話し合っていました。このワークでとても素晴らしかったことが、浅沼さんが自分の変容を共有してくれた場面でした。「ニュースを見て、パレスチナはテロリストが多くて怖いところと思った」～「事前学習をして、実際はパレスチナ人がイスラエル人に迫害を受けていることを知った」～「現地に行ってみて、人の土地でなんて無礼なことをしているのと思った」～「ホロコースト博物館を見学して、ユダヤ人の気持ちもわかると思った」と変わっていったことを話してくれました。それぞれの立場での意見の違いがあることや、知らないで判断することの怖さを素直に伝えていました。今見えていることをそのまま鵜呑みにするのではなく、文字通りクリティカルに捉え、思考を深めていくことの大切さをとても分かり易く伝えてくれました。近い年齢であるからこそ、そのすごさを素直に感じる最高のモデルとの出会いになったと思います。

また、このプログラムを見学に来ていた教育委員会の指導主事からは、本校の子どもたちが「自分事」として捉え、考えるスキルがとても高いことを指摘してくれました。開校当初、SDGsは小学生には難しく、特に身近でないことを自分事とすることが困難だとの指摘がされましたが、経年での積み重ねがこのような成果になってきていることを改めて嬉しく思いました。

いよいよ本年度も残りひと月となりました。これまでの活動へのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

### 《専任より》

### 「知る」ことの大切さ



先日、専任研修でトランスジェンダーの方のお話を聞く機会がありました。性の多様性について自分ではわかっているつもりでしたが、ご自身の体験をもとにした話を聞いて、改めて考えさせられることがたくさんありました。新たに「知る」ことで、自分の感覚・価値観がブラッシュアップされた気がします。

子どもたちは、今まさしく自分の価値観を形成しています。学校という集団で学習・生活する場だからこそ学べるがあります。多くの人と出会い、違いを認めながら、互いに歩み寄りたり、折り合いをつけたり、様々な経験を通して感じ、考えることが大事です。自分を「知る」、相手を「知る」、違いを「知る」、…。様々な「知る」を通して、自分を見つめ直し、自分も周りも大切にできる人になってほしいと願っています。そのために、わたしたち大人ができることは何なのか、わたしたち大人も考え続けていく必要があるかもしれません。

いよいよ3月に入り、今年度も残すところあと1か月となりました。この時期は、新学年への期待とともに、新しい教室や友達など環境の変化に不安を感じるお子さんもいるのではないのでしょうか。いつも以上にお子さんの様子に気を配り、気になることがあればご遠慮なく学校にご相談ください。 児童支援専任 赤津 淳子